

最前線で活躍する 消防団



昼夜を問わず火災現場に駆け付ける消防団。結城市の消防団は、火災発生時、交通整理などの後方支援にとどまらず、率先して放水作業に従事するなど、現場の最前線で活躍しています。

「迅速・正確・臨機応変」をモットーに

30歳を迎えたタイミングで入団しました。入団前は「消防団って指導や上下関係が厳しいのかな」と想像していましたが、実際は全く違って、上司・部下関係なく、皆で意見を出し合いながら協力していく雰囲気ですね。

私の会社は消防団活動を理解してくれており、出動で会社を抜ける際も「ケガせずに帰って来いよ」と言ってくれるので、ありがたいです。

出動するとどうしても疲れや眠気は残りますが、「ケガだけはせずに無事家族のもとへ帰る」ということは、いつも念頭に置いています。

火災現場には何度も出動していますが、過去に家が燃えているショックで家主さんが泣き崩れている現場もありました。だからこそ、自分たち消防団はいかに「迅速・正確・臨機応変」に消火対

応できるかを考えて、普段から準備しています。

昔に比べると火災はかなり減っていますが、近年は風水害のリスクが高まっています。万が一災害が起こったとき、消防団の詰所には必ず団員が詰めているので、不安なことや相談したいことなどがあったら、気軽に頼って話しかけてもらえればと思います。

そして普段から、お住いの地域の「防災」に、少しでも関心を持ってもらえたらうれしいです。

給水ポイントを確保するため
約30kgのホースを背負って現場を駆け巡ることも！



わたなべ たかし
渡辺 隆さん
(七五三場)

所属：第8分団
消防歴：9年
職業：会社員

自主防災組織が地域の命を守る

大きな災害が発生したとき、消防署や消防団などの公的な防災機関の活動は著しく制限されます。そこで重要な役割を果たすのが、自治会や町会ごとに結成される「自主防災組織」です。

しかし、結城市の自主防災組織結成率は、県内で最も低い**32.5%**(4月1日現在)です。そこで、市内でも先行的に活動に取り組む「七五三場自主防災組織」の皆さんに、設立までの経緯や運営のポイントを伺いました。

設立までの経緯

2019年10月に設立し、自治会全住民が加入しています。普段の活動は、備蓄している資機材の点検や操作訓練などです。また、七五三場地区が市内で唯一土砂災害警戒区域に指定されているため、青嵐荘さんと「災害対応に関する協定」を結び、土砂災害対応の講座や車いす操作訓練などを合同で行いました。

設立前は、住民の防災意識もあまり高くありませんでしたが、消防経験者などを「防災委員」として自治会内に置き、専門知識のある防災委員を中心に話を進めたことや、敬老会・子ども会・氏子などグループごとに丁寧に説明して回ったことで、ほとんど反対はありませんでした。



七五三場自主防災組織の皆さん

運営のポイント

消火班、救護班、給食給水班など組織内の役割は、その年の自治会役員と兼任で自動的に割り当てるので、人選に手間がかかりません。また、自治会役員は毎年改選しますが、防災委員は改選せず固定しているので、毎年変わる自治会長を防災委員が補佐する形でスムーズに運営できています。

防災意識をすぐに高められる“特効薬”はありません。仲間内のグループから発展したり、既存の自警団組織を活用するなど、「地域にあった組織」にすることで、無理なく活動を継続することができます。



地域の集会所で、県職員による出前講座を受講

組織結成や資機材整備に対して 市から補助金を出しています

詳しくは市ホームページをご覧ください
問 市防災安全課 消防防災係
☎ 34-0411



● 組織結成 のための経費

5万円 以内

説明会の開催、先進地調査、啓発資料の作成
防災カルテや防災マップ作成 など

● 資機材整備 のための経費

10万円 以内

(対象経費の1/2以内)

メガホン、消火器、救助用具、担架、避難誘導旗、
腕章、強力ライト、非常持出袋、井戸用ポンプ、
消防用ポンプ、備蓄食糧 など

